

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 18



浅香山浄水場の つつじが見た70年

5万人が賑わう「つつじ祭り」
今年4月27日から5月6日

私の名はヒラドツツジ。1937年(昭和12年)に、堺市の浅香山浄水場の沈でん池堤防に植えられた。堺市の水道が通水した1910年明治43年から27年後のことだった。通水前にコレラや赤痢が流行し、その対策としての水道が必要だった。浅香山の地に根をはり、今では2500本もの大家族になった。1956年(昭和31年)には、一般公開され、「つつじの通り抜け」として市民の皆さんと対面することとなり、1989年(平成1年)には「大阪みどりの百選」に名を連ねた。

昨年からは「つつじ祭り」となり、5万2000人余りの人とお会いできた。通り抜けは、4月下旬から5月上旬の満開のシーズンだけ。このシーズンは、浄水場の職員が場内の警備や案内に駆けつけ、私と職員の距離は近かった。今は、浅香山浄水場の敷地には配水池だけが残り、職場はなくなった。職員の皆は私のこと覚えていられるのか、さびしい限りである。



浅香山浄水場へはJR阪和線「浅香山」駅または南海高野線「浅香山」駅から徒歩10分程度。



Culture Navi かるちなーび

まるで「犯罪者扱い」のアンケートは許されない



「思想調査アンケート」裁判原告55人の決意
スタンダップ
No.7 河原美智子さん

もう1年もたったのに、アンケートを思い出すと今も血の気が引いて、とても不安になります。あの時、私は手が震えました。「処分」という言葉があったし、すごく悩みました。「業務命令」と市長の直筆サイン入りのアンケートは、まるで、悪いことをした人に自白を迫るような内容でした。組合に入っていることが悪いことみたいに、組合の仲間が犯罪者扱いされているようでした。私は保育士として、保護者の立場に立って支援し、保育をしてきたつもりです。

家族会議で「お母さんはどうしたいん？」
家族会議を開き、下の子から「お母さんはどうしたいん？」と聞かれました。私は「出さない」という気持はありましたが、「仕事を辞めるわけにはいかへん。あんたたちの学費どうするの」と聞くと、「お母さんのやりたいようにしたらええやん。お母さんの気持ちが大事やろ」と答えてくれました。原告団として、仲間や、支持してくださるたくさんの方々と、家族に支えられながら共にがんばろうと思います。

「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

1616ビジネスファニーが



「渡されたバトン～さよなら原発」

新潟県巻町で原発建設をストップ

全国各地で「原発をなくそう」の世論が高まるなか、タイムリーな映画が完成しました。好評の映画「日本の青空」シリーズの第3作です。新潟県巻町で実際に住民投票で原発建設をストップさせた運動をもとに、ジェームス三木が脚本を書きま

した。新潟県巻町では町の過疎化が進行するなかで、1969年に、原発建設の話がもちあがり、その後、25年間にわたって、住民のねばり強い運動で、ついに住民投票を実施させて原発建設計画を断念させました。こうした住民のとりくみを、町内で料理屋を経営するひとつの家族を中心にして描きます。

当初は原発建設賛成だった主人公が家族の思いや地域のつながりのなかで、次第に「原発建設はいいのだろうか」と気持が変化していきます。

原発建設に反対する娘の「人間は歴史をつないでいく中継ランナー。次代にいいバトンを渡したい」の言葉に心をうごかされていきます。

巻町では実際にも「風船飛ばし」「折鶴運動」「ハンカチ運動」など、住民が創意と工夫で、粘り強い運動を展開しました。映画は原発建設を断念させた体験を描くだけではなく、原子力発電所の廃炉、原発ゼロの社会をめざす運動を広げていくメッセージを示しています。原発ゼロへの運動の広がりにも大きな役割を果たします。ぜひ観てほしい映画です。上映時間は120分です。

▲5月12日(日) ①10:30 ②13:30 ③16:30
会場は「エルおおさか大ホール」
問い合わせは ☎090-3486-771
※制作協力券で鑑賞できます

いかにしてお客様に喜んでもらえる演奏ができるかと考えます。が、自分を曲げてまで喜んでもらう必要はない。お客様に迎合するんじゃなくて、まともな芸をやって喜んでもらうことが一番大事です
岡本 文弥 (新内の大師匠)

生涯現役を貫いて1996年に101歳で大往生した、浄瑠璃の一種である新内の新作の名手であった岡本文弥さん。従軍慰安婦と呼ばれる人々への謝罪をこめ、99歳でつくった「ぶんやアリアン」という作品が全国各地で上演されマスコミも取り上げ大評判に。二百年の伝統を持つ小さな三味線音楽が、現代に生きてハタラク、役立つことを喜んだ時のことば。

心に響くひとこと

民を殺すは
国家を殺すなり
田中 正造

人がいるからまとまりができる。人民を殺すことは、国家を殺すということです。日本初の公害事件と言われた足尾銅山鉱毒事件を告発した政治家として有名な田中正造が、足尾銅山鉱毒事件の被害を知らしめるために国会に提出した質問書に書かれた言葉です。国家とはすなわちそこに暮らすすべての人々のことであり、たとえ一人であってもその命を粗末にすることは、国家を粗末にすることにつながります。国家のために人を死に追いやるなど本末転倒でしょう。